



2020

愛媛大学工業会会誌

第34号



愛媛大学工業会

〒790-8577 松山市文京町3番 愛媛大学工学部内
Tel/Fax 089-927-9702(ダイヤルイン)
E-mail: kogyokai@eu-kogyokai.jp
ホームページアドレス<https://www.eu-kogyokai.jp>

新居浜高等工業学校同窓会
新居浜工業専門学校同窓会
愛媛大学工学部同窓会
愛媛大学大学院工学研究科同窓会
愛媛大学大学院理工学研究科(工学系)同窓会

愛媛大学工業会会誌（第34号）目次

ご挨拶	工業会会長 柿木 一高（電47）	1
工学部長の挨拶（2020年7月）		
多難な時代に頼りになる人材育成をめざして	工学部長 高橋 寛	2
定年退職に際して		
学際領域を旅して	藤井 雅治（電52）	3
万能超高压流体圧装置開発について	木村 正樹（院機54）	4
講演会		
卒業してからの20年を振り返って	大林 弘明（院電H11）	5
技術者として、マネージャーとして学んだこと	湯浅 功一（院機材H17）	6
編集委員会企画		
工学部附属社会基盤・センシングセンターの紹介	センター長 中畑 和之	8
支部だより		
東京支部報告 2019年8月～2020年7月	鳥海 基忠（機54）	10
東海支部活動報告	兵頭 修（機46）	11
令和元年愛媛大学工業会近畿支部総会&懇親会の報告	渡邊 武晴（機42）	12
岡山支部報告	額田 信一（電52）	13
広島支部報告	橋本 一寛（生機46）	14
高松支部活動報告	谷 喜文（院電53）	15
高知支部報告	中村 考男（鉦40）	16
クラス会報告		
工業化学科昭和38年卒業同期会	矢野 晴彦（工化38）	18
電気工学科昭和39年卒クラス会	嶋崎 一三（電40）	19
生産機械工学科S44卒 第7回 同期会 in 高知（2018.10.29）	篠崎 憲明（生機44）	20
生産機械工学科S44卒 第8回 同期会 in 呉（2019.10.27）	島津 義孝（生機44）	21
冶金学科昭和41年卒・同窓会の御報告	米岡 俊明（冶金41）	21
二宮翔会活動報告		
コロナ禍での新たな活動様式に向けて	代表 藤田 健斗（機械工学科3回生）	23
校友会		
愛媛大学校友会をご存じですか？		24
愛媛大学基金		
愛媛大学基金 令和元年度決算報告について	愛媛大学長 大橋 裕一	24
本部報告		26
役員一覧		32
学内近況		34
訃報		35
寄付金のお願い		36

p.29～p.39は紙版のみの掲載です。Web版（PDF）には掲載されていません。

ご挨拶



愛媛大学工業会会長

柿木 一高
(電47)

愛媛大学工業会会員の皆様には、日頃より、支部活動および本会の運営にご支援・ご協力をいただきまことにありがとうございます。

今年は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大という、未曾有の災禍に見舞われて、会員の皆様にも仕事やプライベートに大きな影響を受けておられることと思います。

また、本年は例年になく広範囲に及ぶ豪雨災害が発生し、会員の皆様の中にも被害に遭われた方がいらっしゃるのではと心配しております。罹災された皆様方には衷心よりお見舞いを申し上げますとともに一日も早い復旧を心より願っております。

さて、今年は新型コロナウイルスの影響で集合しての会議が出来ないということで、議事の案件につきましては、常任理事会をリモート会議で開催し、議論を重ねていただきました。その後、理事会の議案を理事および役員の皆様方にメール等でお送りしご審議をいただきました。変則的な会議開催となりましたが、役員各位のご協力で、今後の工業会の新しい方向付けができたものと感謝しております。

具体的には、工学部の学生に対する海外研修支援や愛媛大学基金室への支援、支部特別活動支援などの事業について盛り込むことができました。

役員会で承認されました「令和2年度事業計画および予算案」を皆様のご協力をいただきながら、今年度の事業として実施していくこととなります。

今年度の事業計画では、愛媛大学基金への支援など支出の増加が見込まれますが、これは新型コロナウイルスの影響により、生活困難となった学生を支援するための緊急措置として寄付金を増額するもの

であります。

その他の事業につきましては、可能な限り経費の節減を織り込み、前年度を下回る予算で計画することができました。

しかしながら、今年度は、新型コロナウイルスの影響で計画通り事業が遂行できるかどうか心配な点もございますが、会員の皆様のご協力をいただきながら、令和2年度の事業を進めて参る所存であります。

なお、「令和元年度事業報告および決算報告」につきましても、監査報告を含めて役員会で承認されました。

理事会や役員会の準備に携わられました役員各位・事務局に心より感謝を申し上げます。

今後とも、諸先輩方のお考えが込められた「工業会会則」の精神に則り、工業会の「会員相互の親睦と人格の向上を図る」という目的に沿った、「事業運営」、「支部活動」、「大学運営への参画」など、会員の皆様のご意見をいただきながら積極的に進めて参ります。

新しく会員になられた諸氏につきましても、工業会についてご理解をいただくとともに、工業会の事業や支部活動に参加していただきたく、そしてまたこの会誌が無事お届けできるよう、「連絡先」などの情報提供をお願いいたします。これは新会員に限らず、「会員名簿」の精度向上の観点から会員の皆様全員にもお願いするものであります。

最後になりましたが、愛媛大学、そして工学部、理工学研究科（工学系）、また校友会および各学部と同窓会・後援会各位の今後ますますのご発展と、工業会会員の皆様のご健勝を祈念しております。

工学部長の挨拶(2020年7月) 多難な時代に頼りになる人材育成をめざして



愛媛大学工業会名誉会長（愛媛大学工学部長）

高橋 寛

平素より、愛媛大学工業会会員の皆様におかれましては、愛媛大学工学部に対して多大なるご支援を賜り

まして心より御礼申し上げます。

私たちの想像を超えたコロナ禍での新しい生活においては、これまで通りに戻らないことや、これまで通りに戻すべきでないことなどの選択をしなければならない状況となっておりますが、会員の皆様の生活はいかがでしょうか。

工学部においても、感染予防対策を徹底する観点から、今年の前学期の講義は、一部の実験・実習科目を除いて遠隔授業で実施しています。情報通信技術の普及の恩恵を受けて、試行錯誤の連続ではございましたが、多くの科目で順調に遠隔授業を実施することができております。一方で、遠隔における学生と教員、学生同士のコミュニケーションをどのようにとることが良いのかに関しては、今後、引き続き検討していかねばなりません。このコロナ禍で、これまでの生活では起こりえなかった状況として、組織を離れて個人として、時間をかけていろいろなことを考える機会が与えられました。今後はその個人の考えをよりよい組織の運営のために活用することが期待されています。

さて、このような社会情勢において、「ひとを中心とした」新たな価値を見出す新たな社会として「Society 5.0」を構築することがより一層喫緊の課題となり、急速な実現が求められています。

工学部の改組において次の10年に向けた工学系人材の育成の在り方を検討して、工学部の将来構想といたしましては、広く地域・社会からの要請を自覚しながら、

- 1) 社会人を含む工学系人材の育成を強化すること
- 2) 研究の成果を社会実装まで発展させることをめざしている道半ばであります。工学部として

は、ウィズコロナ、ポストコロナの多難な時代においても頼りになる工学系人材を育成することを続けていく覚悟でございます。

具体的な方策としては、一年生に対して必修化した工学の基礎的な共通科目をさらに充実することにより、学生が学びながら自身の興味と適性を考えて、2年生で教育コースを決定する仕組みを定着させたいと考えています。来年度の3年生から課題解決型の演習（PBL）を必修化していますので、この準備も入念に行っています。今年の2年生から新たな専門の教育プログラムによって、「ものづくり」を志向した基盤工学分野と「ことづくり」や「サービスづくり」を志向した新工学分野のそれぞれの特徴を生かした教育が実施されています。これらのことを総合して、社会からの多様な要請や学生の多様な学びの要求に応えることができると信じています。

新しい工学部の活動としては、地域の産業界・地域のステークホルダーと大学・工学部を橋渡しし、愛媛県並びに四国地域の様々な産業から要請される各種課題に対応するために、工学の重要分野に対する工学部附属センター群を設置しています。これまでに工学部附属船舶・海洋工学センター、工学部附属高機能材料センター、および工学部附属社会基盤・センシングセンターを設置し、これらの附属センターを工学部と地域とのインターフェイスとして、地域の人材育成並びに地域産業の機能を強化するために活動を進めています。

これからの多難な時代においても頼れる工学系人材を育成するために、オール工学でのぞんでいきます。オール工学には、工学部OBである皆様方にもぜひ加わって頂き、これまで以上に強い関係を築くことができればと念じております。

最後になりますが、愛媛大学工業会会員の皆様の益々のご健勝とご発展を祈念するとともに、新たな工学部の取組に対しまして、一層のご理解ご協力の程お願い申し上げます。

学際領域を旅して



藤井 雅治 (電52)

40年と10か月、愛媛大学でお世話になり、工業会では学内委員の立場から関わることができ、大学の教育・研究という表の仕事と同窓生との連絡（連携）というもう一つの仕事に関わることができて、充実した教員生活であったとあらためて感じています。また、全ての支部総会に出席することができたのもよい経験でした。初めて参加した東京支部総会の懇親会は、旧制松山高等学校の同窓会との合同で、大先輩と交流することができたのは予想外のことでした。

私の主な研究は高電圧・プラズマと有機系半導体（導電性高分子）関係でした。これらの分野は学際領域でしたのでいろいろな分野出身の人と関わりとなりました。そこで意識させられたことは、研究対象が同じであっても出身分野によるモノのとらえ方の違いでした。それについて少し述べてみたいと思います。[職場に関しても実は電気→電子→材料と変わり、学科運営でも学際領域を経験した]

プラズマ研究は核融合のために急速に広がり、理学部と工学部出身の研究者中心で、大学でも独自に研究所を立ち上げていました。対象は同じプラズマですが立場によって見方が全く異なることを幾度となく感じました。工学系はやはり足を地につけた立場からの議論となります。工学系出身者は如何に実現していくかという問題意識が根底にあり、卒論等の研究で興味深い実験であっても必ずそれは何の役に立つか（応用は？）といった質問をうけます。物理系の先生に何度か同様な質問をしたことがありますが、その時はいつもなぜそのような質問をするのかという目で見られました。興味深いから研究しているのであってそれに理由があるのかといった感じです。[近年は外部資金獲得のため理学部の先生も枕詞のように何か付けるようになってきています]

導電性高分子の研究では、化学系の人たちと交流

することになるのだが、化学系の人には如何に効率の良いものを創るか（合成するか）といったことが主となっているところがあり、デバイス（応用）の観点から質問すると形式的な返答しか得られないことが多かったです。また、この分野は無機半導体で実現していることを有機で実現していこうとするため、デバイスとしては無機半導体の知識（バンド理論）で、細かいところは量子化学的な説明をすることが多く、まだまだ発展の余地があります。[プラズマは連続体として扱う（流体力学）場合と離散的なものとして扱う（力学）場合があり扱う際の基準ははっきりしている]

なお、退職時にはこれに神経伝達物質やCNF（セルロースナノファイバー）などもからんできてバイオ、農学系にも分野が広がり学術用語は多岐に渡るようになっていました。[余談であるが、新しい学術用語は語源からのアプローチでずいぶん楽しむことができた]

異分野に関わる話で、工学系の立場からPDCAやSTEM教育について考えてみましょう。これらは新しい試みで大学に導入されてきていますが、PDCAは理系の研究手順そのもの〔仮定-実験-結果-考察そして次の実験と続く〕で、コンピュータでの処理（流れ図-さらに収束するまでを含む）で考えると新しいことは何もないことが分かります。STEM教育に関しても卒論発表を含む工学部の教育には概念的にはすでに含んでいることが分かります。学際領域を渡り歩いていると、これら導入された概念は、今まで漠然とやっていたことに新しく名前が付いたことで捉えやすくなり、次へのステップへとつながっていると実感します。いうことが実感できる。これを読んでパラダイムシフトはそれほど多くは起きないとしてリーダーシップを取っていただければと思います。

万能超高压流体圧装置開発について



愛媛大学教員

木村 正 樹 (院機54)

私は愛媛大学工学部機械工学科を卒業し、流体工学研究室で鮎川恭三先生、越智順治先生、河井達雄先生の指導を受け修士課程を修了しました。1979年に工学部共通講座応用物理物性工学研究室に就職しました。物性工学研究室では西武照雄先生、花山洋一先生と共に新しく流体圧の高圧力装置を開発しようと文部省に

予算要求の書類作成することが最初の仕事でした。

物質は高圧力にすると体積当たりの分子数は固体とほぼ同等になり、気体と液体の区別はなくなり高密度流体となります。高圧力装置はピストン・シリンダ型が基本でシリンダ内の流体をパッキンで封入し体積を減少させて高圧力を発生させる方式です。一般工業用装置はこの型式が大部分です。研究室用の高圧力装置では圧力領域を一段と高くすることが装置開発の目的でした。1980年に予算が認められました。試料空間が広くとれ高圧室内から電氣的絶縁とシールを行う電極を持ち、均一な圧力条件で固体液体気体すべての物質が研究対象になることから万能超高压流体圧装置と名付けました。

装置の枠は門型を重量と予算の関係であきらめて、上下2台のプレスを3枚のプレートとそれらを支える3本ずつの柱で構成し総重量13.5トンの設計です。したがって個々の部品をチェーンブロックで持ち上げ組立ていくことになりました。シリンダ外形に1対12のテーパをつけサポートリングに押し込むことでシリンダに外圧をかけ、内圧による破壊を防ぎます。シリンダは厚肉円筒の外形内径比を6と大きくとり、材質は高じん性かつ高強度材料を選びました。パッキンは各種金属の組み合わせ、形状、硬さなど実験後のパッキンの形状観察が重要でした。部品の設計、加工精度、組立て、パッキンのなじみなどいずれも試行錯誤の連続です。装置開発の

むつかしさを経験しました。システムとしての高圧装置だから、どこか一つでも壊れると実験ができません。壊れたらやり直しの連続でした。設計の見直しや部品製作加工精度の向上を行い、実験条件の改良は一つだけ変えて実験して確かめながら行いました。他の条件をすべて同じにしないとその効果がわからないためです。

実験は10トンのチェーンブロックを使います。吊り荷と共に移動し手元で操作できるタイプです。容量が10トンで特別教育を受けた時のことです。松山空港近くの工場内でパレット上の10トン部品を吊りました。円筒外形が大きく異なった円筒状で各長さが異なりT字型に溶接された形状でした。重心を推定しその真上近くにクレーンのフックを持ってきてワイヤーロープをかけました。クレーンの運転手に引き上げの合図をした時、ワイヤーロープが部品の下を滑って部品が傾き上がりはじめました。パレットに接していた最後の1点だけになった時に非常事態が置きました。部品が回転して目の前に迫ってきました。特別教育の教官の鋭い笛が響き渡りました。緊急停止の合図をクレーン運転手に伝えること、重心とフック位置の誤差、重量物の回転等を予測すること、前後左右の位置調整にかけたロープは人の力だけでは対応ができないこと、予測外の事象に対応する安全な距離を取っておくことです。つまり安全が全てに最優先することでした。再度吊り直して特別教育を終えました。

大学の組織替えで所属がいろいろ変わりましたが入船徹男センター長のもとで貴重な経験ができました。ずっと同じ装置の開発に取り組めたことは非常に勉強になりました。実験回数を増やさないと進展が確認できず、あっという間に定年を迎えてしまいました。

卒業してからの20年を振り返って

トランスコスモス(株) シニアテクニカルエキスパート

大林 弘明 (院電H11)

2020年1月14日に、在校生を対象に機械学習やDeep Learningについて簡単なお話をさせて頂きました。ここでは、その際にお話しできなかったことを綴りたいと思います。私が大学院を卒業して約20年が経ちました。大学院を卒業後、携帯電話の開発に携わりました。携帯電話の観点から、この20年間でどのような変化があったかを振り返りたいと思います。

まず、20年前は、音声通話の携帯電話が中心で、SMS、iモードが開始し、写メールという言葉が始まった程度でした。携帯電話のハードウェアは、2020年としては、信じられないくらい低く、CPUの動作クロックが30MHz程度、RAMが4Mバイト～8Mバイト程度でした。2020年現在のスマートフォンでは、CPUの動作クロックが2.8GHz、RAMが6Mバイト～8Mバイトです。当時の開発現場では、将来、このようなハードウェアスペックがスタンダードになるとは想像できていませんでした。また、携帯電話のソフトウェアも大きく変わりました。20年前のソフトウェアは、組み込み向けのリアルタイムOSや文字ベースのGUIが主流でした。いままでは、PCと同様にLinuxやUnixのようなOSが動作し、アプリをインストールすることもできます。

さらに、携帯電話の通信速度も大きく飛躍しました。20年前は、2Gと呼ばれる通信方式が中心で、SMSやiモードと呼ばれるサービスが開始された時期でした。今では5Gと呼ばれる通信方式が始まり、光回線以上の通信が実現されようとしています。

ここまでは携帯電話自体の話でしたが、携帯電話の役割も大きく変わりました。20年前、携帯電話の主な利用は、音声通話、メールでした。2020年の今では、写真や動画の撮影、音楽や動画の鑑賞、さらには電車やコンビニ等での支払いをスマートフォンで行うようになりました。動画配信は、20年前はビデオオンデマンドと呼ばれ、そのための圧縮技術やコーデック技術が検討されて、現実味のない話でした。今では、携帯電話やタブレットなどで手軽に映画やTV番組などを楽しめ、当たり前のこととなりました。

20年後の2040年も、きっと、今とは違う世の中になっていると思います。もしかするとIoTやAIなどの技術が当たり前の中の中になるかもしれません。どのような世の中が待っているのか分かりませんが、次の新しいに何かに携われる大きなチャンスがあるかもしれませんね。



技術者として、マネージャーとして学んだこと

アイシン精機株式会社 材料技術部 先行開発グループ

グループマネージャー 湯 浅 功 一 (院機材H17)

1. はじめに

私は、愛媛大学大学院理工学研究科機能材料工学専攻を2005年に修了し、アイシン精機株式会社に入社しました。2009年にアメリカに赴任し、言葉と文化の壁を乗り越えてローカルスタッフとプロジェクトを成功させ会社の利益に貢献してきました。現在は、若手マネージャーとして、自動車業界に訪れている100年に一度の大変革期を乗り越えるために、メンバーと一緒に挑戦し続けています。

講演では、学生の方に対して、就職活動、残りの学生生活、社会人としての人生をより良いものにするための気づきになればと、私の体験談と想いを伝えさせて頂きました。

2. 就職活動経験談

就職活動を控えた皆さんにとっては、今一番気になることだと思いますので、題目からは若干外れますが、経験から気づいたことをお話しします。

2-1. 就職活動は楽しい

正直に言うと、私は最初から今の会社に入りたいと思っていたわけではありません。高校時代に漠然ともものづくりに関わる仕事がしたいと思い、ものづくりのスタートは材料だと考え、大学で機能材料工学を専攻しました。就職先としては材料メーカーや材料部門のある製造メーカーを対象に100社以上へエントリーシートを出し、20社以上の面接を受けました。

はじめは、面接で何を聞かれるのだろうと不安でしたが、結局のところ聞かれることは自分のことなのです。自分のことを一番知っているのは自分だと自信をもって臨むことができるようになりました。また、日常生活において他人が自分の話を真剣に聞いてくれる機会というのはそんなに多くないと思います。そう考えると大変貴重な機会なのです。いろんな人がいろんな角度で自分のことを聞いてくれるこの貴重な機会は、新たな自分の良さの発見にも繋がりが、気づいた時には、もっと聞いてほしい、話したいと、面接を楽しんでいました。

2-2. 伝えるスキルを磨こう

面接で気を付けていたこともお伝えしたいと思

います。①熱意を表に出して伝える。②相手が聞きたいことを簡潔に伝える。この2つは、社会人になった今でも気を付けていることです。特に②は必須スキルです。今からしっかりと磨いていってください。①は、今の立場から採用面接の面接官を任されることがあります。その際に、学生が同じようなことを話しても、熱意を表に出している人とそうでない人では、伝わり方が全然違いました。本人が思っている以上に熱意は面接官には伝わっています。

2-3. 面接は企業を見極める場

面接は、企業が学生を見極める場所であると同時に、学生が企業を見極める場所でもあります。私自身、複数社から内定を得ていたものの、面接官の人の柄からその企業の姿を見てとり、今の会社に決めました。しっかりと企業を見極めてください。

3. 社会人経験談

就職し、材料技術部に配属されました。設計部門が製品設計を行い、その設計要求を満足するための材料を選定・評価・開発することが材料技術部のタスクです。私は有機材料チームに所属し、樹脂材料を担当しました。過酷な使用環境で使われる上に、高い長期信頼性が要求される自動車製品の軽量化、低コスト化を目的に金属からの樹脂化の製品開発に携わってきました。講演会では開発事例を話させて頂きましたが、ここでは割愛させて頂き、海外赴任経験と若手マネージャーという立場で学んだことをお話しします。

3-1. 海外赴任

入社3年で人並みに仕事ができるようになってくると、優秀な先輩や上司のような考え方や仕事ができるようになるのか？と考えることが多くなり、危機感を感じていました。そのため、自分を追い込んで挑戦することで成長する必要があると考え、英語は全くできませんでしたが、海外赴任に自ら手を上げました。

赴任時は年齢も役職も一番下でしたので、通訳や日本人慣れした現地スタッフのサポートがなかなか受けられず、現地スタッフに交じって、なりふり構わず行動しました。言葉だけでは十分伝わらないの

で紙とペンを常に携帯して書いて伝えたり、ジェスチャーは必須でした。会議では、「もう一回話してください」など理解確認のために何度会議を止めたか数え切れません。しかし、それを乗り越えることで、言葉は通じなくてもなんとかできるという自信ができました。

海外での仕事を進めるのに英語以上に苦労したものが2つあります。1つは文化の違いです。これは相手の文化を理解し歩み寄るしか方法がありません。もう1つは、肩書です。出世欲が全くなかった私に、自分のやりたいことをグローバルで進めるためには、出世も必要だと考え直すきっかけになりました。

3-2. 若手マネージャー

自動車業界は100年に一度の大変革期を迎えており、生き残りをかけ働き方改革を推進しています。しかし、マネージャーの中にもこれまで積み上げてきた成功体験から否定的であったり、若手の中にも現状に不満を持っていても、声を上げてどうせ否定されると思い行動することをあきらめているなど問題がありました。そういった中でも変革を推進していくことを若手マネージャーは期待されており、周りとはぶつかりながらも、行動と結果を示していくことで、味方を少しずつ増やし推進してきました。

特に力を入れているのが、SDGs（持続可能な開発目標）達成に向けた材料技術開発の強化です。環境貢献の重要性は関係者も理解しているが、2016年当時は社内での研究開発費の投入が困難でした。そのため、社外に目を向け、環境省のNCV（ナノセルロースビークル）プロジェクトへ自ら中心となり参画、開発費確保に加え、省庁、大学、企業との人脈を形成しました。社内では、CNF（セルロースナノファイバー）強化樹脂のインテークマニホールドの開発を企画し、設計、生産技術のキーマンを説



東京モーターショー 環境省ブースにて出展

得し、プロジェクトを牽引してきました。技術開発成果を、2019東京モーターショー、高分子学会、エコプロ展などで発表し、会社としての環境に対する取り組みをPR、社内でも展示会や社内報などを通じてPRすることで、社内外の協力を得て開発を推進してきました。

挑戦していない人間に挑戦しろと言われて、心に響くわけがない。周りを動かすために、役割と立場が変わっても自らが先頭に立って挑戦していくことが重要です。

4. 最後に

自分が何をしたいのか？ それを今一度真剣に考えて下さい。自分の将来を描いたときに、無謀と思えたとしても全く問題ありません。夢をもって、熱い思いがあれば人間死ぬまで挑戦できます。学業も、仕事も、遊びも、熱く生きて下さい。

皆さんがよりよい人生を歩まれることを切に願っております。

このような機会を頂いた恩師の藤井先生、井堀先生および愛媛大学工業会の皆様に感謝いたします。



工学部附属社会基盤 i センシングセンターの紹介

センター長 中 畑 和 之

1. センター設置の背景

現在、モノのインターネット（IoT）化が至るところで導入され、機械の動作、人間の行動、自然現象などの多様かつ膨大な“モノの状態”がセンシングされています。日本政府が第5期科学技術基本計画で掲げるSociety 5.0では、このセンシングデータを活用してフィジカル空間とサイバー空間を一体化させ、新しいイノベーション創生を目指しています。必然的に、このSociety 5.0では新たな社会基盤（インフラ）が生まれ、それによって社会の構造やルールも変化するでしょう。Society 5.0の実現には、センシング技術やデータ解析の高度化はもちろん、その技術を地域に実装することがキーとなります。本学工学部には、これらの要素技術を研究する研究者が多く在席します。これまで、教員が個別に社会の課題に取り組み、教員間の情報や技術共有が

乏しいのが現状でした。本センターの設置によって、解決すべきテーマから全体を俯瞰し、横断的なプログラム組織として一気通貫で対応できるようになりました。工学研究の知見を活かし、愛媛地域の新しいインフラ・エコシステムの構築のサポートをオール工学でお手伝いできればと考え、本センターの設立に至りました。

2. i（アイ）センシングセンターの名称について

IoTのように情報や通信を示す場合、Innovationのように技術革新を示す場合、Intelligenceのように知識を示す場合、Ingenuityのように創造を示す場合など多くの意味を包含しています。また、愛媛の「愛（アイ）」を象徴し、地域のために貢献できるように願いを込めて、社会基盤 i センシングセンターとしました。

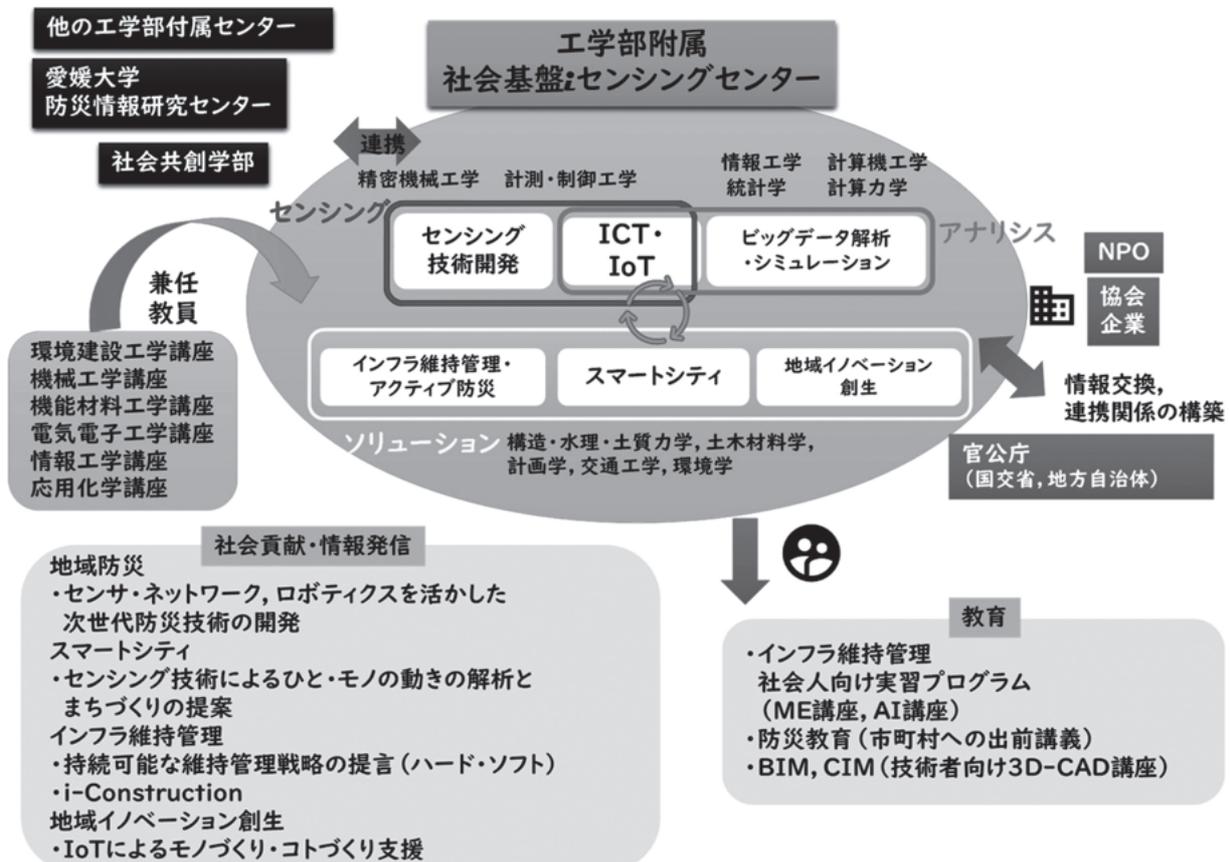


図1：社会基盤 i センシングセンターの概要

3. センターの特徴と強み

本センターは、図1に示すように、センシング(測る)、アナリシス(分析する)、ソリューション(課題解決・実装)の3部門から成ります。センシング部門には、変形を静的・動的に測る、電気・磁気的な量を測る、光学的な量を測るといった物理センサだけでなく、温度や湿度を測る、気体の種類や液体中のイオンを検出するための化学センサなど、デバイスを研究開発する研究者がいます。また、センサネットワークを構築しデータを効率的に収集して転送するIoT技術の研究開発に携わる研究者がいます。山間部や海上等で電力の持続的供給が難しい場所でも、低消費電力で長距離の通信を実現するセンサネットワークを構築する研究開発も行っています。センシングデータの量は膨大で多様である場合が多く、これらを分かり易く可視化したり、統計的に処理したりするだけでなく、人工知能(AI)を駆使してデータの分析や識別等を行う研究者もいます。高性能計算技術を駆使してシミュレーションによって実現象をサポートし、データ同化を試みる研究も見られ、これらはアナリシス部門として統括されています。一方、ソリューション部門では、地域のステークホルダーと連携し、工業製品、社会インフラ、行政サービスなどの様々な分野でデータドリブンを実践した問題解決に取り組みます。既に多くの教員がそれぞれ得意なフィールドを持っていますので、このフィールドをさらに発展させます。本センターは愛媛大学工学部の6講座全てから教員が参画する総勢37名の大所帯です。各教員は3部門のいずれかに所属していますが、課題によっては部門を横断して対応できるフットワークの良さが本センターの特徴です。

4. センターの実施内容

以下の4つの項目を掲げていますが、相談内容によって柔軟に対応していきます。

- ①工学部の多様なシーズを活かした、社会基盤管理、環境保全、まちづくり、モノ・ひとのためのセンシングデバイスやセンサネットワークの開発支援
- ②データ解析・可視化技術やAIを駆使した地域の問題解決と、地域イノベーション創生の提案
- ③学生または地域の社会人を対象とした教育講座、

実習の実施

- ④自治体・民間企業からの技術相談、講習会・セミナー等の窓口

5. 社会とのつながり

国土交通省は、調査・設計から維持管理までBIM/CIMを活用しつつ、3次元データの活用やICT等の新技術の導入を加速化させる『3次元情報活用モデル事業』を実施しています。この事業はi-Constructionと呼ばれ、これをより一層促進させるために全国で10事務所をi-Constructionモデル事務所としました。そのうちの1事務所である四国地方整備局松山河川国道事務所と、愛媛大学工学部は7月2日に協定を結び、3次元モデルの普及や、ICTを導入した建設労働環境の改善などで連携していくこととなりました(図2)。国交省以外にも、クラウドコンピューティングに関する地域の活動拠点を目指し、民間組織とラボ設立を模索しています。

6. 定期セミナーのお知らせ

毎月第3金曜日の16:30から、37名の教員による仕繰(しくり)セミナーをオンラインで実施しています。教員の研究内容をかみ砕いて説明することで、教員間の連携を強固にし、さらに学外の方と研究マッチングを促進することが目的です。無料ですのでぜひご参加下さい。お問い合わせは、センター長の中畑和之まで(nakahata@cee.ehime-u.ac.jp)。

今後とも、本センターの活動に、ご支援とご協力をよろしく願っています。



図2：松山河川国道事務所と愛媛大学工学部とのi-Constructionに関する調印式
(左：西野毅事務所長, 右：高橋寛工学部長)

東京支部報告 2019年8月～2020年7月

東京支部長 鳥海基忠(機54)

1. 支部総会(2019年11月)

【開催概要】有効会員数は約1,950名。電子メールと封書で開催連絡。港区のグランパークコンファレンスで開催。参加者は会員39名(前年34名)+来賓5名=44名('18年41名, '17年39名, '16年49名, '15年58名)。

【スケジュール】①柿木会長挨拶, ②講演会「“通信と災害”の現状と対応」工学部 都築伸二先生, ③総会(活動報告, 平成30年度決算・監査報告, 令和元年度活動計画・予算案審議と承認), ④懇親会

【課題】①連絡可能会員の減少(平成以降の卒業生情報がほとんどなく, 若い人の総会参加者が非常に少ない。高齢化による総会参加者の減少), ②少数支部役員の負荷大, ③総会以外の活動として支部勉強会の声があるが対応余力が無い。

【対策: 次回の開催時期・開催方法変更の決議】前年度総会決議に基づき他学部同窓会との同時開催検討進捗を報告。2020年は, 校友会首都圏支部・東京章光会(法文学部)・ユウカリ会東京(農学部)と合同懇親会を行う計画が了承された。講演会は, ①合同, ②工業会東京支部は単独で別途実施の2案があり, 単独実施の声が強い状況であったので, その方向で他学部と調整する。

合同開催により, 経費削減, 運営合理化を進める

と共に, 愛大卒業生の学部横断の連携を強化し, 新たな同窓会を目指す。

2. 2020年支部総会当初計画

2020年7月11日, 工業会支部総会のあと, 講演会(校友会首都圏支部講演会, 工業会講演会), 合同懇親会を開催予定であった。2019年開催の首都圏の校友会・法文学部・農学部の合同開催(90名弱参加)に対して工学部が加わる形で合計130名以上の参加を予定していた。

3. コロナ禍による支部活動変更

①本年度支部総会の通常開催は中止し, 電子メールと封書により支部総会のみを実施する。講演会, 懇親会は実施しない。

②本年度の議事のポイントは, (1)支部長改選, (2)通常開催中止による2019年度予算から大幅変更の決算報告, (3)合同開催は, 2021年に実施する方向で調整する。但し, 各同窓会の実施判断, コロナ禍のオリンピック開催の影響もあると想定し, 開催時期は他学部と調整していく。

当面, 変則的な対応となりますので, 支部会員の皆様にはご理解を頂ければと思います。



東海支部活動報告

東海支部長 兵頭 修 (機46)

東海4県（愛知，三重，岐阜，静岡）で，ご活躍の愛媛大学工学部卒業生の皆さん！ 新型コロナウイルスがまだまだ収まらない昨今，いかがお過ごしでしょうか？

今年も，東海支部総会を開催する時期になりましたが，開催場所の名古屋市内で，東京や大阪からの出張者や海外からの帰国者からの感染者が散発しており，支部総会を開催できる状況ではありません。

しかも，支部総会参加者が高齢化し，新型コロナウイルスの重症化のリスクを考えると，ますます開催の道が遠のくばかりです。

それでも，東海4県でご活躍の諸先輩方の会社生活や仕事の進め方についてお互いに，話し合い，談笑し合うことで，少しでも，技術屋としての好奇心に火をつけたり，また，お招きした現役の教授には，愛媛大学の近況報告をして頂きますので，世界に向

けて活躍する愛媛大学工学部の逞しい姿を，直接肌で感じて頂き，その卒業生であることを誇りに思っ
て頂ける場である東海支部総会への参加は，きわめて貴重な体験となりますので，何とか開催したいと思
っていますが，新型コロナウイルスの余波の影響は如何ともしがたく，2020年度は中止することを決定いたしました。東海4県の会員の皆様には，誠に，申し訳ありません。

来年は開催できることを祈って，2019年度東海支部総会の参加者の集合写真を下記に載せておきます。懐かしいお顔の方々を，思い出して，お楽しみください。そして，参加者全員の笑顔に新人の参加者の笑顔が来年の支部総会で見られるよう，また，それまでの皆様のご健勝とご活躍を祈念しております。



東海支部総会風景（2019年10月26日）（東海支部総会会場：JR名古屋駅前「京町しずく名古屋駅前店」）

令和元年愛媛大学工業会近畿支部総会&懇親会の報告

近畿支部長 渡 邊 武 晴 (機42)

1. 支部活動状況

1) 総会&懇親会について

近畿支部では令和元年度総会&懇親会を令和元年11月16日(土)に大阪第一ホテルで開催しました。当日は工業会本部より柿木一高会長、大学より小林千悟教授(大学院 理工学研究科 物質生命工学専攻 機能材料工学コース)をお迎えし、総勢31名の出席者での開催となりました。

来賓挨拶で、柿木会長からは工業会の課題(紙ベースの会員名簿の発行廃止など)への取り組み状況と支部活動への期待のお話がありました。また、小林教授からは工学部学科編成の推移、本年度より6学科体制から1学科9コース体制に改組された経緯、ご自身がセンター長を務められる工学部附属高機能材料センターにおける、工学部の様々な研究者群と研究設備をフルに活用した共同研究の推進及び高度な人材育成など興味深いお話を伺いました。

総会では、支部の活動状況、会計、役員体制などが報告通りの内容で承認されました。

引き続き柿木会長の乾杯のご発声で懇親会が始ま

りました。学校時代の懐かしい話や近況を語り合ったり、初めての方と名刺交換したりで賑やかな懇親会となりました。

このあと出席者全員が順番に近況を報告しました。第二の人生での意外な分野での活躍ぶりが披露されるなど、大いに盛り上がりました。

最後に全員で愛媛大学学歌や寮歌を唄った後に、梅村幹事(冶金49卒)の万歳三唱で会を締めくくり来年も元気に再会を約して閉会となりました。

2) 令和2年の近畿支部総会

今年度の近畿支部総会を予定通り実施するかどうかは9月に決定し、ハガキでのご連絡と工業会HP、近畿支部HPに掲載します。

今のところ総会が中止の可能性が高いので、別途屋外での親睦会開催を検討することになりました。この親睦会の企画がうまく出来たら、近畿支部HPに掲載したいと思いますので、今後近畿支部のHPを時々覗いてみてください。…インターネットで“愛媛大学工業会近畿支部”で検索してください。



岡山支部報告

岡山支部長 額田 信一 (電52)

岡山支部の活動状況について、以下にご報告させていただきます。

1. 特別講演会 令和元年11月23日
2. 支部総会・懇親会 令和元年11月23日
3. 支部役員会兼会員懇親会 中止いたしました。
4. 次回支部総会予定 令和2年11月28日

1. 特別講演会

令和元年11月23日(土・祝)の午前中に「アークホテル岡山」で開催しました。たまの全体の山口宏氏(生機S45卒)を講師に迎え、『人体の不思議』をテーマに、健康維持に重要な運動や安全でストレスを癒す整体について、実技を交えて楽しくご指導をいただきました。

2. 支部総会・懇親会

同日の午後より、記念撮影、総会、及び懇親会へと移行しました。

大学から岡本好弘教授(愛媛大学大学院理工学研究科電気情報工学専攻)を、本部から柿木一高愛媛大学工業会会長をご来賓としてお迎えし、大学と工業会の近況をお話しいただきました。また、広島支部からは河野徹校友会中国支部副支部長を、愛媛大学ユウカリ会(農学部同窓会)からは久保田尚浩岡山県支部長を特別参加としてお迎えしました。総会

議事として、支部状況の報告、役員を選任、会計報告ならびに監査報告が行われ、全ての議案が賛成多数をもって承認されました。

その後の懇親会では卒業年度が昭和30年代の方から、平成28年度の方まで和気あいあいと懇親を深めていただき、最後は恒例の学歌斉唱と三本締めで無事閉会となりました。参加人数はご来賓を含めて34名でした。なお語り尽くせなかった方は、同ホテル内で開催された二次会にて更に話に花を咲かせながらカラオケ等で大いに盛り上がりました。

3. 支部役員会兼会員懇親会

令和2年の支部役員会兼会員懇親会は新型コロナウイルス感染拡大のため、中止といたしました。次回支部総会および校友会中国支部総会の設営準備については、役員間で適宜連絡を取り合って進めていきます。

4. 次回支部総会予定

次の総会は校友会中国支部総会と同日開催で、令和2年11月28日(土)を予定しております。ただし、新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては変更の可能性もありますので、支部からのご案内にご注意いただければ幸いです。



広島支部報告

広島支部長 橋本 一 寛 (生機46)

1. 役員交代

6年間の長きにわたりお務めいただきました前支部長の河野徹さんに代わり、今年度より新しく橋本一寛が務めさせていただきます。下記新役員の一一致協力により会員の皆様が楽しく、かつ喜んでいただける支部会にして行きたいと思っておりますので、ご参集のほど宜しくお願い致します。

副支部長：大澤 秀邦 (院機械S55卒)

筒本 隆博 (院冶金S55卒)

事務局長：橋本 健二 (機械S53卒)

会 計：埜田 実 (生機S55卒)

監 査：高津 和史 (冶金S49卒)

常任幹事：8名 (詳細はホームページ参照)

2. 2019年度の活動

2-1 工業会広島支部総会

2019年9月28日 午後2時から

場所：TKPガーデンシティPREMIUM広島駅前
工業会より柿木会長と大学より板垣教授に出席いただき、全34名で開催しました。

2-2 校友会中国支部総会

2019年9月28日 午後3時から

場所：TKPガーデンシティPREMIUM広島駅前
工業会広島支部総会に引き続き、部屋を変えて開催しました。また、胡法文学部教授による「四国遍路と世界遺産について」のご講演をいただいたあと懇親会となりました。

出席者 工学部39名、法学部14名、教育学部4名、
文理学部3名、農学部4名
柿木工業会会長、板垣教授、胡教授、事務局4名 合計71名



写真1 全員の集合写真



写真2 河野前支部長挨拶

2-3 工業会広島支部のイベント

例年はテニス大会も行われますが今年度は登山イベントだけでした。

6月8日から1泊2日

テーマ「大山周辺の山で新緑と春の花を楽しむ」
黒岩・佐々木さん等6名の参加でした。



写真3

3. 2020年度の計画

4月、6月、8月、9月の幹事会で総会及びイベントの計画を行うことにしていましたが、コロナウイルス感染拡大で7月時点では会合を持つことができず、総会の開催可否を含め未計画の状況です。

今年度の計画については決定次第下記ホームページに掲載予定ですので参照ください。

(広島支部ホームページ)

<https://www.eu-kogyokai.jp/hiroshima/>

4. 今後に思うこと

工業会支部総会と校友会中国支部総会を同時期に行うことは時間的に無理が多くて参加者の方にはそれぞれの開催趣旨が伝わりにくい状態となっています。校友会の意義も十分に理解できますが国領会から続いている工業会の歴史的背景もあり工業会だけとした支部総会を開催すべきではと、個人的に考え

ています。先輩後輩同僚が活躍されている企業見学を定期的を実施し、愛大同士のつながりを深めて行きたいと思います。また広島支部として県東部会員の参加を促進する企画、また若い現役社会人の参加を促す企画を重要課題として考えて行きたいと思っていますので皆様のご協力をお願いします。

高松支部活動報告

高松支部長 谷 喜 文 (院電53)

愛媛大学工業会の皆さま、お元気ですか？

恒例の高松支部大会は令和元年11月15日(金)、リーガホテルゼスト高松において、大学より電気電子工学科の門脇一則教授、工業会より柿木一高新会長をお迎えし、総勢32名にて盛大に開催致しました。

門脇先生からは、工学部の近況、柿木会長からは5月に開催された工業会80周年の総会の様子など本部近況についてお話し頂いた後、楽しい懇親会に移りました。

出席者は、電気22年卒の長井先輩を最年長に昭和卒が18名、平成卒が12名でした。毎年、高松支部は多様な年代のメンバーで楽しく支部総会を行っていますが、特に今年は卒業年で70年以上差の、職場や年齢を超えた素晴らしい会になりました。

年が明けて、新型コロナウイルスの影響から自粛モードになりましたが、第1波が収まり、徐々に活動が再開しかけた6月13日(土)に高松グランドCC鹿庭コースで、元気な9名が集まり、楽しくゴルフを楽しみました。



結果は、途中急な雨にもめげず土木H3年卒の猪熊良介様が優勝されました。

新型コロナ対策から昼食の休憩も取らず表彰式も行わずにゴルフ場を後にしましたが、次回の支部総会時に優勝をご披露したいと思います。

一刻も早く新型コロナウイルスの影響が収まって、普通に高松にゆかりの皆さんと年に何度か母校の話や近況報告で盛り上がる事が出来るよう心から祈っています。



高知支部報告

前高知支部長 中村 考 男 (鉦40)

高知支部では、総会を令和元年11月9日(土)午後5時00分より、鏡川河畔の料亭臨水で開催しました。

出席者は本部から谷喜文副会長、大学から木下尚樹准教授をお迎えし総勢25名の開催となりました。

総会に先立ち夕部雅丈工学博士(博士生産H13)による「言葉の力」についての講演会を開催しました。その中で、天才と言われる人たちは幼いころから、文字で思いを綴っていたことや、小6の時に30年後の自分に宛てた手紙を入れたタイムカプセルを校庭に埋め、30年後に開けたところ医師になる夢が実現していた山岡真美氏のこと、イチローをはじめスポーツ選手の小学生の時に書いた作文の夢が実現していること、子供4人全員を東大医学部に入学させた佐藤亮子氏、3歳までに1万冊の読み聞かせをしたことなど、言葉が持つ力について数々事例を紹介され、貴重な話を聞くことが出来ました。

総会では、谷副会長から工業会の近況について、木下先生から大学の1学科9コース編成の内容や工学部附属センター群のこと等、大学を取り巻く状況について話がありました。

引き続き役員の改選が行われ、新しく久武由典氏(機63)が高知支部長に就任しました。

懇親会では、穴の開いたひょっとこ杯や天狗などのベク杯の発祥の店でもあり、おかみの三味線で、



2019. 11. 10 黒潮カントリークラブ

ベク杯ゲームを行い、大いに盛り上がり楽しい時間となりました。

翌日、毎年カシオワールドカップが行われているkochi黒潮カントリークラブで、ゴルフ大会を行いました。当日は良い天気にも恵まれ、雄大な太平洋を眺めながら和気あいあいと楽しいゴルフでした。ちなみに成績はダブルペリア方式で谷副会長がグロススコア98.0、ネットスコア75.2で昨年に続いて優勝しました。

今年は支部総会を中止いたします。



2019. 11. 9 第28回高知支部総会 於料亭「臨水」

令和2年度の支部総会について

令和2年度は残念ながら、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、総ての支部総会が中止となりました。
該当のみなさまには、メールまたはお葉書で通知

をさせていただきました。

一日も早い新型コロナウイルスの終息と工業会のみなさまのご健康を心よりお祈り申し上げます。



グリーンプラザ (旧 グラウンド)

写真提供：工学部等技術部
政岡 孝氏

クラス会報告

工業化学科昭和38年卒業同期会

矢野 晴彦 (工化38)

我々は、2004年来、隔年ごとに同期会を開催してきた。2018年3月開催の鹿児島での同期会で次回は富士山の見えるところでとの提案があり、静岡在住の矢野が担当することになった。2020年の東京オリンピックイヤーを避けて、富士山の見える確率の高い、ラグビーワールドカップが終わった2019年11月初めに開催することにした。ほとんどのメンバーは、現役時代に新幹線からの富士山をよく見ていたと思われるが、富士山を全方位から見る機会がほとんどなかったと思い富士山周遊の旅を企画した。余り知られていないが、富士山は、山頂を中心に南南東から北北西にかけて約70の側火山を有し、ふもとは多くの湧水がみられ、駿河湾内にも湧水箇所があることが知られている。

11月6日13時30分にJR静岡駅に集合し、まず日本平に向かった。日本平には東京オリンピック新競技場設計者である隈研吾氏が設計した日本平夢テラ

スがある。雲一つない快晴に恵まれ、そこから清水港越しの富士山、駿河湾と伊豆半島、静岡市街地の向こうに南アルプスと360度の風景を堪能した。次いで、富士宮にある富士山世界遺産センターに移動し、館内のらせんスロープを登山者になった気分で見ながら展望室まで上り、富士山本宮浅間神社の赤鳥居越しに夕方の赤焼けし始めた富士山の眺望を満喫した。その後、今夜の宿泊地である御殿場高原ホテルに向かった。地ビールで乾杯して旧交を温め、お互いの近況報告を行った。今回は、残念ながら常連メンバーのうち本人や奥様の体調不良等で7名が参加できなかったのが9名での開催となった。

令和2年春には全員が傘壽以上となることから、より一層集まりにくくなるかもと次回開催が危ぶまれたが、山田氏が次回幹事を引き受けてくれ、全員次回姫路での再会を約して宴会を終えた。丁度、ホ





テルのある時之栖では約200メートルに渡るイルミネーショントンネルが施されていたので全員で散策し、温泉に入って一日目を終えた。

7日も雲一つない快晴でホテルの各部屋から朝日に輝く富士山を東側から見る事ができた。朝食後まず、長池親水公園から山中湖畔越しに自衛隊北富士演習場を麓に持つ富士山の眺望を満喫し、観光客でにぎわう忍野八海の湧水池を見学した。紅葉にちょっと早い河口湖畔のみじ街道を経て富士ビューホテルで甲府名物の“ほうとう御膳”の昼食を済ませ、ホテル屋上の展望台に上り北側からの雄大な富士山を見たのち、青木ヶ原樹海沿いに本栖湖の千円札の逆さ富士の原画（岡田紅陽の写真“湖畔

の春”）の撮影場所に向かった。風で湖面がさざ波立っていたので残念ながら千円札の様に逆さ富士を見る事は出来なかったが、手元から千円札を出して比較しながら富士山の遠望を楽しむことができた。最後に、朝霧高原からすそ野に数個の側火山を有し、現在も大沢崩れが進んでいる西側からの富士山を見たかったが残念ながら大沢崩れは雲がかかって見る事ができなかった。でも今回の旅行は、メンバー全員の日頃の行いが良いせいか2日間にわたっての快晴で、富士山の全貌を楽しむ事が出来た。予定通り15時30分にJR静岡駅に到着し、次回の再会を約して散会した。

電気工学科昭和39年卒クラス会

嶋 崎 一 三 (電40)

日時 平成31年10月10日
 会場 松山市 道後 ふなや旅館
 平成31年10月10日松山市道後のふなやにて開催。
 参加者は黒河先生を入れて14名、写真左上より、磯

野、中川史、渡辺、鶴、本田、嶋崎、高野、田中、岡崎、三好、神谷、黒河先生、山本、西である。道後駅前に集合して、商店街を通り改築中の温泉を見て会場に。料理を味わいながら談笑。お互いに年を



重ねても気分は青春時代。互いに再会を期して別れた。

なお、ゴルフは台風19号接近のため中止したとの

こと。令和2年度のクラス会は、神谷、本田、両氏が幹事となって兵庫の地で開催してくれることとなった。

生産機械工学科S44卒 第7回 同期会 in 高知 (2018. 10. 29)

篠崎 憲明 (生機44)

2012 (H24) 年から毎年開催の同期会は7回目を迎え、高知県で10月29日(月)に開催しました。

開会に際して先ずは、本同期会の常連であった、故丹原将氏 (2018. 2. 23逝去) に哀悼の意を表し、遅ればせながら黙禱し、ご冥福をお祈りいたしました。

高知城下の天然温泉『三翠園』での豪華な皿鉢料理は格別のものでした。幹事・鈴木恭一君には、自社製品の『美肌マスク』まで提供いただき恐縮しました。今回は西日本豪雨で被災した広島、岡山及び愛媛の温和気候地域での対処、反省などの報告がありました。

翌日のゴルフは1組4名キャディ付で名門の土佐カントリークラブで太平洋を望みながら熱闘をくりひろげて、森脇邦宏君が優勝致しました。

次回開催地については、本2次会にて議論・結論

を出すことにしており、種々案(海外も)が出、結局同期会会長の島津君に一任、つまり中国地区開催になりました。



三翠園 (2018. 10. 29)

生産機械工学科S44卒 第8回 同期会 in 呉 (2019.10.27)

島津 義孝 (生機44)

卒業50年、記念すべき同期会を広島地区での2回目の開催で呉市クレイトンベイホテルにて開催しました。思い起こせば7年前、40年以上も実現出来なかった同期会を発足し、今回で8回目を数えることになりました。私を含め広島地区の人間には、呉は松山への経路であり、4年間行き来した思い出の地でもあります。

先ずは集合写真、容姿は変わっても集まれば青春時代！一人ずつ直近の状況報告、人生の長旅に感心、共鳴して聴き入ります。それでも数名は今も何らかの仕事に携わっており、生き活きとした日々を過ごしているようで頼もしい限りです。サンデー毎日の人にとっては、参考になることも数多く地域での交流、ボランティア活動こそが元気の源であることを再認識しました。

宴会は飲み放題付ながら、歳のせいか進まないが、語り合いは尽きることなく一次会は盛会裏にお開き、二次会会場は昼の大部屋にて話が弾むが、あ



クレイトンベイホテル (2019.10.27)

そこが痛い、ここが痛いの話の多いこと。

遅くまで話は弾んだが、準備した酒は予測を遥かに下廻り歳のせいとは否めないと痛感した次第。

今回は、広島地区でのゴルフ参加者がいないため、翌日のゴルフは取り止めて呉市内観光を企画した。

大和ミュージアム、てつにくじら館、戦艦大和の塔、潜水艦基地と廻り、皆さんには珍しいであろう潜水艦を見ながらの昼食で散会した。呉在住の後英春君に感謝。

来年(2020年)は、関西地区での開催を予定しております。

残念ながら、2019年3月に幹事の中西和司さんをご逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。



大和ミュージアム (2019.10.28)

冶金学科昭和41年卒・同窓会の御報告

米岡 俊明 (冶金41)

道後温泉大和屋本店において2019年(平成元年)10月9日泊りがけで行われました。我々が現役を引退する60歳前にそれまでの4年毎から2年毎に開催することに決め、それぞれが居住する地域の仲間が主体となって、広島、神戸、徳島、別府、松山で開催してきました。残念ながら居住者が少ない東海以東では行われていません。

前々回、2017年より幹事の負担が大きいことと、学生時代を過ごした懐かしい地で行いたいとの要望が多く、最終的に大和屋本店に以後の開催予約と案内等を任せることにしました。その2回目が今回の同窓会で、幹事がないような！ともかく、三々五々宿泊する部屋に集まり夕刻同窓会場となる部屋に案内されました。入学時はインドネシア留学生を

含め22人、故人となったものが2名、行方不明1名の中で出席者は11名でした。体調を壊している4名を除いてよく集まったものと思います。まずは、物故者への黙禱から始まり乾杯、各自の現況報告や出席できなかった友人の伝言の後は、悲しいかな体の不調箇所や病歴の言い合いで盛り上がりました？3部屋への分宿でしたが、2次会はその1室でゴルフなどの趣味や、旅行談、株などの金もうけの話などわいわいがやがや！

翌朝、ホテルでの朝食後散会となっており、解散前にホテル前で集合写真をと呼び掛けていたのですが、二日酔いがあったのか揃わず撮ったのを掲載します。

以後、三々五々帰りに着きましたが、筆者ともう

1名は行方不明者の手がかりを求め、工業会の事務局に押しかけました。もちろん事前に数回メールで問い合わせていたのですが、埒が明かないため強行したのです。事務局にはご迷惑をおかけしましたが、平成15年版以降の名簿の中に郷里に帰り連絡先が登録されていたのが見つかりました。調べた結果数年前にすでに故人となっていたことが判明しました。毎回の名簿を購入していたらサインを見逃すことなく、以前の同窓会で会えたかも知れないと残念でなりません。

なお、インドネシア留学生は2011年別府での同窓会に出席してくれ、楽しい思い出になっています。今回、体調を壊して出席できなかった者も含め、皆近況など伝えあっています。



コロナ禍での新たな活動様式に向けて

代表 藤田 健斗 (機械工学科3回生)

2002年に設立された二宮翔会は、今年で創部18年目となりました。私たちは、航空機研究者であり、八幡浜市出身の偉人である二宮忠八が作った「カラス型飛行器」を現代に蘇らせ、より長距離のフライトを成功させるべく日々活動しております。今年はコロナウィルスの影響により、正式な手続きは行えておりませんが、4名の新入生から入部希望を頂いており、部員は工学部を中心とする総勢24名となりました。

昨年、鳥人間コンテスト出場を逃しました私たちは、笠岡ふれあい空港での長距離フライトを成功させるべく、運用のしやすさ、飛行の安定性に重きを置いた機体の製作に取り組みました。三度の愛媛大学グラウンドでのテストフライトを経て、安定して機体浮上を行えるようになり、動力伝達機器、操舵機器、計測機器の实地試験での不具合解消、パイロットの操縦技術向上と、万全を期して8月中旬、笠岡ふれあい空港でのフライトに臨みました。結果、フライト中の機体損傷によりこれ以上のフライトは不可能と判断し、結果を残すことは出来ませんでした。応援頂いていた皆様、クラウドファンディングで出資頂いた皆様には申し訳ない結果となりましたが、機体損傷時、各部員が的確な行動をと

り、負傷者を出すことなくフライトを終えることが出来たので、決して無駄なものではない、実り多きフライトに出来たと感じております。

その後、機体の一部にセルロースナノファイバーを使用することで、機体を軽量化、昨年パイロットと比べて低体重の部員をパイロットに採用し、軽く、必要出力の低い機体を念頭に置き、新たな機体の設計、製作。そして、笠岡フライトでの機体の破損箇所の修復に努め、第43回鳥人間コンテストへの出場を目指してまいりました。

しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度大会の中止が決定されました。7月末の現時点でも、対面でのサークル活動が再開できておらず、機体製作も滞っております。

今後の活動としては、部員から感染者を出さない、クラスターを発生させないことを最優先事項とし、十二分な対策がとれ、安全性を確保出来次第対面での活動を再開致します。

応援頂いている皆様の期待に添えますよう、次年度の鳥人間コンテスト開催を信じて尽力していきますので、今後とも二宮翔会をよろしくお願い致します。



昨年、笠岡フライトでの様子

校友会

愛媛大学校友会をご存じですか？

愛媛大学校友会はすべての学部を越えて組織された団体で、同窓生をはじめ、学生及びその保護者、現職及び退職の教職員を会員として、2004年に設立されました。

校友会は、①学生サークルへの援助 ②就職活動旅費の支援 ③留学渡航費の支援 ④学生図書への寄贈 ⑤入学生・卒業生への記念品贈呈 ⑥子規俳句カレンダーの作成 ⑦新社会人の歓迎会など、主に学生支援事業を行っています。

また、同窓生が主体となって組織された首都圏支部・近畿支部・中国支部では、講演会や懇親会を開

催し、皆さんの参加をお待ちしています。

同窓生の皆さんは既に校友会会員ですが、会員情報のご登録がないと大学の近況や校友会報の送付、校友会イベントのご案内が出来ません。是非、下記によりご登録いただき、校友会活動にご参加くださいますようお願いいたします。

〈愛媛大学校友会事務局〉

<http://koyu.ehime-u.jp/>

〒790-8577 松山市文京町3番 校友会館2F

Tel 089-927-8610

E-mail: office@koyu.ehime-u.jp

愛媛大学基金

愛媛大学基金 令和元年度決算報告について

愛媛大学長 大橋 裕一

本学では、教育研究、社会・国際連携等を通じ、地域社会を担い、地域に貢献できる人材を育成し、継続的に輩出するために必要な事業（フィールドワーク・インターンシップ支援・海外留学支援等）を実施するため、平成28年4月に「愛媛大学基金」を創設し、基金活動を展開してきました。

教職員はもとより、各企業、各同窓会等、工業会員様を初めとした卒業生、一般篤志家の皆様から温かいご支援を賜り、目標（第三期中期目標期間6年間で3億円以上）を上回る金額をお預かりしております。厚く御礼申し上げます。

令和元年度末の決算状況（概況）等につきましては以下のとおりです。今後とも、皆様からのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

【令和元年度受入額（収入額）について】

受入額は84,580千円（1,332件）となりました。これは、年間目標金額（5千万円）の169%に相当する成果となります。

なお、創設当初からの寄附累計額は、第三期中期目標期間中の目標額3億円に対して467,893千円（達成率156%）であり、目標額を上回ることができました。しかしながら、人材育成基金相当のえみか夢基金の寄附累計額は、193,888千円と堅調に推移していますが、超低金利時代を反映し、元本取崩し型の基金となっています。基金の継続的な活動を行う上で安定した財政基盤を築くためにも、再度のご支援をお願いできればと思います。

【令和元年度事業（支出額）について】

地域貢献を果たす人材育成事業（学生海外派遣プログラム、地域定着推進奨学金及び未来教育基金（給付型奨学金）事業）や教育環境整備事業等に活用（58,842千円）しました。

◎『愛媛大学基金—コロナ緊急支援奨学金—』への御支援について（お願い）

今般、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染

拡大に伴う社会情勢の変化により、家計支持者の失業・減収や、学生のアルバイトによる収入減など、愛媛県を含め全国各地で、経済的に困窮し、修学の継続が困難になっている学生が増えています。

このような状況を受け、本学では、皆様から心のこもった御芳志『愛媛大学基金（えみか夢基金）』を原資とさせていただき、愛媛大学独自の学生支援策として、生活に困っている学生に対し『愛媛大学緊急支援給付金^(※参考①)』事業に取り組むこととしました。

本学において、経済的に困窮している学生に対し十分な対策を講じ、継続的な支援を行っていく所存です。コロナの第2波、第3波の襲来を想定した支援（同額の給付型奨学金^(※参考①)の創設等）を検討中ですが、確実に実施するためには、安定した『財政基盤』や『基金の拡充』が不可欠です。

その取組みの一つとして、学内教職員は元より、一般篤志家の皆様及び企業の皆様等へ御支援をお願いさせて頂いて戴いているところです。

つきましては、貴同窓会におかれましても、生活に困っている学生に対し、愛媛大学の気持ちのこもった対策として、引き続き支援することができますよう、愛媛大学基金（『未来教育基金』または『えみか夢基金』）へ御支援を賜りたく、御協力いただきますよう、宜しくお願い致します。

（※参考①）

愛媛大学独自のコロナ対策（Ⅰ）

愛媛大学緊急支援給付金

（令和2年度緊急支援①）

⇒3万円／人を基準として1千人程度支援

（5月29日振込手続済）

財源：えみか夢基金（所得控除対象／企業；
全額損金計上可能）

愛媛大学独自のコロナ対策（Ⅱ）

愛媛大学コロナ対応緊急支援奨学金

（令和2年度緊急支援②）

⇒5万円／人を基準（案）として支援

財源：未来教育基金（税額控除対象）、えみか夢基金（同上）

（※参考②）

◇カードでのお振込（御支援等）も可能となっています。

愛媛大学基金HP（http://foundation.office.ehime-u.ac.jp/contents/donation_method/）から、手続きも可能となっていますので御利用願います。

【問い合わせ先】

愛媛大学 基金室（TEL：089-927-8346）

ホームページ

<http://foundation.office.ehime-u.ac.jp/>

本部報告

令和2年度愛媛大学工業会役員会 決議報告

今年度は、コロナ禍の感染拡大予防のため3密を避けて理事会をメール会議により開催した。役員会は、理事会決議を会長、副会長、顧問の方々に書面でお送りし、承認をいただいた。

【会議開催状況】

学内委員会 メール会議	令和2年6月18日～24日
第1回常任理事会 Zoom会議	令和2年7月13日
理事会 メール会議	令和2年7月22日～8月3日
第2回常任理事会 Zoom会議	令和2年8月6日
役員会書面承認	令和2年8月7日～17日

【決議内容】

1. 令和元年度事業報告および決算報告について承認された。
2. 令和2年度事業計画案および予算案について承認された。
〈予算案補足〉
 - ▶愛大基金に、学生へのコロナ禍給付金に対する支援として例年額に20万円増額して寄付する。
 - ▶学生海外研修旅費は、学生に広く支援することを目的とし、従来の旅費補助を廃止し、海外渡航保険料の補助とする。
 - ▶通信方法などの見直しを行い大幅な経費節減を実現した前年度決算額を基準にして、予算額を設定した。
3. 令和2年度工業会役員について承認された。

以上、議案の決議結果はすべて役員会決議といたし、これを以て、今後、執行に移ることとする。

令和元年度愛媛大学工業会事業報告

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

■支部総会 案内状発送総数 8,482通 メール送信数 1,396通 総参加者数 203名 (内来賓 14名)

支部	案内状発送数 メール送信数 総参加者数 (内来賓)	前年比	開催日時	会場	本部からの出席者
広島	1,867通 169通 34名 (2名)	+187 - ▲18 (0)	R元. 9. 28(土) (校友会中国 支部講演会 と合同開催)	TKPガーデンシティ PREMIUM広島駅前	柿木一高会長 (電気47) 機能材料 板垣吉晃教授
東海	565通 72通 18名 (2名)	▲61 - ▲3 (0)	R元. 10. 26(土)	京町しずく名古屋駅前店	柿木一高会長 (電気47) 機能材料 藤井雅治教授 (電気52)
高知	198通 14通 19名 (2名)	▲21 - ▲2 (0)	R元. 11. 9(土)	割烹旅館 臨水	谷 喜文副会長 (院電気53) 環境建設 木下尚樹准教授 (院土木H2)
高松	845通 82通 32名 (2名)	▲121 - +4 (0)	R元. 11. 15(金)	リーガホテル高松	柿木一高会長 (電気47) 電気電子 門脇一則教授 (院電気H2)
近畿	2,431通 319通 31名 (2名)	▲27 - ▲2 (0)	R元. 11. 16(土)	大阪第一ホテル	柿木一高会長 (電気47) 機能材料 小林千悟教授
東京	1,737通 - 40名 (2名)	0 - ▲1 (▲5)	R元. 11. 17(日)	グランパークカンファレンス 中華レストラン新荘園	柿木一高会長 (電気47) 電気電子 都築伸二教授 (院電子60)
岡山	839通 88通 29名 (2名)	67 - ▲6 (0)	R元. 11. 23 (土・祝)	アークホテル岡山	柿木一高会長 (電気47) 電電 岡本好弘教授 (院電子60)

* 令和元年度は総会年のため愛媛支部総会の開催なし

■会 議

- ・学内委員会……………平成31年4月4日 (11名)
- ・会長会……………令和元年6月26日 (武田前会長 (顧問), 柿木会長, 仲田副会長出席)
令和2年1月29日 (柿木会長, 仲田副会長出席)
- ・常任理事会……………平成31年4月10日* (12名), 令和元年7月4日 (9名), 12月2日 (9名)
* 4/10は総会実行委員会も兼ねている
- ・総会実行委員会……………平成31年4月23日 (12名), 令和元年5月9日 (13名)
- ・理事会……………平成31年4月26日 (30名)
- ・総会……………令和元年5月19日 (92名)
- ・新年会……………令和2年1月20日 (23名)
- ・会誌編集委員会……………メール会議のみ (2回)
- ・愛媛大学開学70周年記念式典行事……………令和元年11月11日工業会枠7名出席

■会誌第33号発行……………令和元年9月

■講演会

学 科	日 時	講演者及び内容
電気電子 参加者33名	令和2年1月14日(火)	大林弘明氏(院電気電子H11修了) トランスコスモス(株) シニアテクニカルエキスパート 講演題目:機械学習とDeep Learning
機能材料 参加者61名	令和2年1月21日(火)	湯浅功一氏(院機能材料H17修了) アイシン精機(株) 材料技術部企画・開発グループマネージャー 講演題目:技術者として, マネージャーとして学んだこと

■その他

- ・学生活動援助2件(機械工学科, 電気電子工学科……工場見学補助)
- ・HP更新・管理
- ・名簿調査……会誌発行時, 卒業時等
- ・愛媛大学基金・工学部寄付
- ・卒業お祝い(495名分)
- ・退職教員お祝い(藤井雅治先生, 木村正樹先生, 井内國光先生の計3名)
- ・特別広報支援(人力飛行機に15万円)

■海外研修旅費 合計206,000円

[学 生] 3名

	氏 名	所 属 学 科	会議場及び期間	補助金額
前 期	52,000円			
1	井奈波祐司 (岡村 未対)	大学院環境建設工学専攻 博士前期1年	パラオインターンシップ (2019. 8. 19~30)	52,000円
後 期	154,000円			
1	河端 晋哉 野原 広大 (李 在勳)	大学院生産環境工学専攻 博士前期2年	ギリシャでの国際会議 (2019. 12. 8~10)	77,000円 × 2

* () は指導教員

最近のキャンパス ～e-スクエア～



構内の全面禁煙に伴い、工学部本館と3号館の間にあった喫煙所がなくなり、新たに学生の食事場所、教員と学生の交流の場所「e-スクエア」として生まれ変わりました。(令和2年11月)



愛媛大学工業会ホームページ
<https://www.eu-kogyokai.jp/>

表紙写真／編集後記

本号の表紙は石鎚山です。石鎚山の紅葉は10月上旬から始まり、11月頃に麓まで広がるということです。本号は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響もあり、例年よりも遅れての編集作業となりました。編集作業は石鎚山の紅葉の時期と同じく10月頃から本格化し、この度、皆様のご協力のもと無事年内に発行することができました。厚くお礼申し上げます。

工学部では工学部附属センター群エンジニアリングモールの一環として、新たに工学部附属社会基盤・センシングセンターが設置されました。本センターにつきましては、編集委員会企画として中畑和之センター長にご紹介いただきました。

卒業生の皆様でクラス会などを開催された際は、お気軽に本誌までご寄稿ください。また、次号からは一言掲示板の開設も検討中です。近況やメッセージなどがありましたら、本号に同封の葉書表面の通信欄に記載してご返送ください。

工業会には公式Facebookもあります。ホームページにリンクがありますので、こちらもぜひご活用ください。

令和2年12月

*表紙写真提供：工学部等技術部 政岡 孝氏

愛媛大学工業会誌第34号編集委員

藤森 祥文, 門脇 一則, 山本 修嗣, 平山 和子